



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成25年2月1日

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

上場取引所 大

コード番号 2222 URL <http://www.okashinet.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部長 (氏名) 松本 真司

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

TEL 0859-22-7477

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	15,497	5.4	1,578	23.3	1,590	27.9	915	49.8
24年3月期第3四半期	14,699	3.7	1,279	2.5	1,243	△5.1	611	△5.2

(注)包括利益 25年3月期第3四半期 912百万円 (46.7%) 24年3月期第3四半期 622百万円 (0.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	88.29	—
24年3月期第3四半期	58.92	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	13,868	6,944	50.1	669.47
24年3月期	13,305	6,239	46.9	601.48

(参考)自己資本 25年3月期第3四半期 6,944百万円 24年3月期 6,239百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,740	5.1	2,010	28.5	2,020	32.4	1,160	65.0	111.82

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 2社 (社名) (株)ジャパルシー、(株)ジュテックス、除外 2社 (社名) (株)加賀寿庵、(株)つきじちとせ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	10,373,840 株	24年3月期	10,373,840 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	364 株	24年3月期	347 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	10,373,481 株	24年3月期3Q	10,373,564 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに記載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、東日本大震災の復興需要など一部に緩やかながら回復の兆しが見られるものの、雇用情勢や所得環境の厳しさから消費者の生活防衛意識や節約志向は高まりを見せ、個人消費は低調に推移するなど、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、『新成長エンジン創り』をテーマに、高付加価値商品の開発、新規出店、新市場・新需要の開拓、人材の補強及び育成、コンプライアンスの一層の強化に注力し、経営基盤の強化及び収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、15,497百万円（前年同期比5.4%増）となりました。利益面では、新規事業立上げに向け人件費が増加した一方、売上高の増収に加え、製造採算の改善などにより売上総利益率が前年同期の50.2%から51.9%と1.7ポイント増加した結果、営業利益は1,578百万円（前年同期比23.3%増）、経常利益は1,590百万円（前年同期比27.9%増）、四半期純利益は915百万円（前年同期比49.8%増）となりました。

なお、解散子会社の株式会社加賀寿庵は平成24年4月に、株式会社つきじちとせは同年6月にそれぞれ清算終了いたしました。子会社の新設では、同年4月に健康食品事業を行うため、株式会社ジャパルシー（東京都港区）を設立し、同年10月より事業を開始いたしました。また、同年11月に株式会社ジュテックス（東京都港区）を設立し、同年12月より事業譲受によりASP事業を開始いたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、道内空港での「ルタオプレミアムあある」の什器展開や、通信販売では、パンの頒布会の開始、楽天市場などネットショッピングモールへの出店などに取り組みました。売上面ではクリスマス商戦シーズンにおいて前期テレビ放映効果で一時的に売上高が伸長した反動減などにより外商部門及び通販部門が前年同期を下回ったものの、前期に新規出店した効果により道内店舗が堅調に推移した結果、売上高は5,327百万円（前年同期比1.7%減）となり、利益面では、プロモーション費用を抑制するなど経費の節減に努めた結果、営業利益は623百万円（前年同期比28.9%増）となりました。

② 寿製菓

寿製菓は、「シュクレイ」の新規出店展開や東海地区での「小倉トーストラングドシャ」の好調などによりグループ向け売上が増加したことに加え、代理店向けに平成24年4月に開通した新東名高速道路のサービスエリアへの新商品の投入、地元山陰地区では、古事記編纂1300年イベントと連携した主力商品「因幡の白うさぎ」の販売強化、また、「枳の実茶」の通信販売の強化などに努めました。その結果、売上高は5,726百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は589百万円（前年同期比37.5%増）となりました。

③ 販売子会社

販売子会社は、駅・空港・高速道路などの交通機関チャンネルを中心に販売強化に努め、東海地区では「小倉トーストラングドシャ」の拡販強化、また、関西地区では、平成24年10月に大阪駅構内の商業施設「エキマルシェ大阪」に出店するなどショップ展開を推進いたしました。その結果、売上高は3,282百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益は183百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

④ 九十九島グループ

九十九島グループは、新商品を投入した大手テーマパーク向け売上が好調に推移したほか、「フォンダンフロマージュ」をメインとする催事展開を推進した結果、売上高は2,348百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益175百万円（前年同期比25.1%増）となりました。

⑤ 但馬寿

但馬寿は、前期の震災の影響による落ち込みの反動や主力商品「黒豆茶」の通販強化、代理店及びグループ向けが堅調に推移した結果、売上高は822百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は72百万円（前年同期比30.7%増）となりました。

⑥ シュクレイ

事業スタイルの変革を進めておりますシュクレイは、関東圏での洋菓子ブランド展開を推進し、平成24年4月にルミネ大宮店、同年5月に東急百貨店渋谷店、同年7月にルミネ立川店、同年9月にルミネ藤沢店及びラゾーナ川崎プラザ、同年12月に東京ソラマチに出店いたしました。さらに、同年7月より催事販売（同年12月より固定出店）により開始した新ブランド「ザ・メープルマニア」による東京駅構内商業施設での販売が好調に推移いたしました。その結果、売上高は1,197百万円（前年同期比94.7%増）、営業利益は46百万円（前年同期は営業利益2百万円）となりました。

⑦ その他

その他は、損害保険代理事業、健康食品事業、ASP事業が含まれております。売上高は28百万円（前年同期は3百万）となり、営業損失は、健康食品事業の開始に伴う立上費用の発生などにより136百万円（前年同期は営業損失0百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、13,868百万円となり、前連結会計年度末と比べ563百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少(270百万円)、受取手形及び売掛金の増加(498百万円)、商品及び製品の増加(145百万円)などによるものです。

負債は、6,923百万円となり、前連結会計年度末と比べ142百万円減少いたしました。主な要因は、返済及び1年内返済予定の長期借入金への振替えによる長期借入金の減少(536百万円)、賞与の支給による賞与引当金の減少(179百万円)などの減少要因があった一方、支払手形及び買掛金の増加(282百万円)、短期借入金の増加(250百万円)、1年内返済予定の長期借入金の増加(152百万円)などの要因によります。

純資産は、6,944百万円となり、前連結会計年度末に比べ705百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上による増加(915百万円)、配当金の支払いによる減少(207百万円)などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.2ポイント増加し、50.1%となり、1株当たり純資産は669円47銭となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想に関しましては、第3四半期連結累計期間の業績が概ね公表予想数値の範囲内で進捗いたしており、平成24年11月2日付発表(「業績予想の修正に関するお知らせ」)からの修正はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間において連結子会社でありました株式会社加賀寿庵は平成24年4月に、株式会社つきじちとせは同年6月に、それぞれ清算したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。ただし、清算終了までの損益計算書は連結しております。

また、当第3四半期連結累計期間において、同年4月に株式会社ジャパルシーを、同年11月に株式会社ジュテックスを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ6,901千円増加しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,522,870	2,252,086
受取手形及び売掛金	2,032,302	2,530,778
商品及び製品	516,280	662,001
仕掛品	26,898	44,083
原材料及び貯蔵品	303,324	362,496
その他	370,684	362,239
貸倒引当金	△5,472	△5,331
流動資産合計	5,766,886	6,208,352
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,103,529	3,048,819
機械装置及び運搬具（純額）	474,897	526,520
工具、器具及び備品（純額）	212,251	227,590
土地	2,571,639	2,564,503
リース資産（純額）	51,085	35,809
建設仮勘定	—	6,294
有形固定資産合計	6,413,401	6,409,535
無形固定資産	137,780	141,226
投資その他の資産		
その他	1,126,287	1,212,814
貸倒引当金	△138,793	△103,171
投資その他の資産合計	987,494	1,109,643
固定資産合計	7,538,675	7,660,404
資産合計	13,305,561	13,868,756
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	730,627	1,012,818
短期借入金	2,000,000	2,250,000
1年内返済予定の長期借入金	494,288	647,114
未払法人税等	459,260	314,115
賞与引当金	362,449	182,891
その他	800,345	849,576
流動負債合計	4,846,969	5,256,514
固定負債		
長期借入金	1,169,617	633,080
退職給付引当金	747,869	761,650
役員退職慰労引当金	98,042	—
その他	203,573	272,746
固定負債合計	2,219,101	1,667,476
負債合計	7,066,070	6,923,990

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	3,686,897	4,395,287
自己株式	△312	△326
株主資本合計	6,227,546	6,935,922
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,945	8,844
その他の包括利益累計額合計	11,945	8,844
純資産合計	6,239,491	6,944,766
負債純資産合計	13,305,561	13,868,756

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	14,699,675	15,497,460
売上原価	7,314,862	7,454,535
売上総利益	7,384,813	8,042,925
販売費及び一般管理費	6,104,894	6,464,462
営業利益	1,279,919	1,578,463
営業外収益		
受取利息	336	271
受取配当金	2,762	2,909
受取地代家賃	14,790	13,796
その他	27,354	29,671
営業外収益合計	45,242	46,647
営業外費用		
支払利息	34,570	29,230
貸倒引当金繰入額	40,450	—
その他	7,040	5,684
営業外費用合計	82,060	34,914
経常利益	1,243,101	1,590,196
特別利益		
固定資産売却益	247	—
特別利益合計	247	—
特別損失		
固定資産売却損	67	1,815
固定資産除却損	12,745	3,515
投資有価証券評価損	30,458	—
特別損失合計	43,270	5,330
税金等調整前四半期純利益	1,200,078	1,584,866
法人税等	588,826	669,006
少数株主損益調整前四半期純利益	611,252	915,860
四半期純利益	611,252	915,860

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	611,252	915,860
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,851	△3,101
その他の包括利益合計	10,851	△3,101
四半期包括利益	622,103	912,759
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	622,103	912,759

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	5,017,963	3,623,051	3,237,916	1,980,347	254,488	582,896	14,696,661
セグメント間の内部 売上高又は振替高	400,683	1,612,105	446	244,868	521,760	32,364	2,812,226
計	5,418,646	5,235,156	3,238,362	2,225,215	776,248	615,260	17,508,887
セグメント利益 (△は損失)	484,143	428,399	177,580	139,884	55,497	2,320	1,287,823

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	3,014	14,699,675	—	14,699,675
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,812,226	△2,812,226	—
計	3,014	17,511,901	△2,812,226	14,699,675
セグメント利益 (△は損失)	△199	1,287,624	△7,705	1,279,919

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額△7,705千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額370,372千円、セグメント間取引消去額10,084千円、たな卸資産の調整額△21,970千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△366,191千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	4,903,488	3,715,467	3,278,930	2,126,036	246,797	1,197,895	15,468,613
セグメント間の内部 売上高又は振替高	423,536	2,010,837	3,158	222,341	575,660	—	3,235,532
計	5,327,024	5,726,304	3,282,088	2,348,377	822,457	1,197,895	18,704,145
セグメント利益 （△は損失）	623,819	589,237	183,008	175,053	72,549	46,329	1,689,995

	その他 （注）1	合計	調整額 （注）2	四半期連結 損益計算書 計上額 （注）3
売上高				
外部顧客への売上高	28,847	15,497,460	—	15,497,460
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	3,235,532	△3,235,532	—
計	28,847	18,732,992	△3,235,532	15,497,460
セグメント利益 （△は損失）	△136,252	1,553,743	24,720	1,578,463

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びにASP事業が含まれております。

2. セグメント利益（△は損失）の調整額24,720千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額423,692千円、セグメント間取引消去額13,019千円、たな卸資産の調整額△35,145千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△376,846千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益（△は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度中において子会社の状況に変動があったことに伴い、セグメント名称を「つきじちとせ」から「シュクレイ」に、「販売子会社（11社）」から「販売子会社」にそれぞれ変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（6）重要な後発事象

該当事項はありません。